

4. 商業ビジョンの方向性

商業ビジョンの方向性を検討するうえで、最初に挙げられるのが「安全・安心・快適性の向上」です。安全・安心・快適なまちづくりは最も重要な地域課題の1つであり、市民ワークショップでも参加者から多数の要望が寄せられました。

次いで、「地域資源の活用」が挙げられます。商業ビジョンの基本方針である『レトロとオシャレのモザイクのまち』を実現するためには、地域資源を有効に活用し、まちの魅力を高めることが重要です。

また、まちの魅力アップには、「個性と賑わいの創出」も欠かせません。個性あるお店・商店街に人が集い、そこに賑わいが生まれます。

一方で、まちの魅力も商店街の個性も情報として知ってもらわなければなりませんし、利便性の向上につながるサービスも必要です。その意味で「情報発信と利便性の向上」も方向性として挙げられます。

最後に、『レトロとオシャレのモザイクのまち』では、多様な魅力が地域に混在融合し、それがまちの活力を生み出すイメージを提示していますが、そのためには、まちづくりに対する共通意識の下で個々の魅力をつなぎ、点から面へとつなげる「回遊性の確保と魅力あるまちづくりとの連動」という方向性が不可欠です。

以上の5つの方向性をまとめると、次のようになります。

(1) 安全・安心・快適性の向上

商店街が中心となって防犯や地域清掃、歩行環境整備などの活動を行い、快適で安心して買い物できる商店街環境を確保して、安全な商店街・まちを実現します。

(2) 地域資源の活用

小杉地区の自然・歴史・文化等の地域資源を活用して商店街の魅力を広くアピールし、地域特性を活かした商店街・まちを実現します。

(3) 個性と賑わいの創出

商店街の個性化・差別化を図り、買い物客が楽しめる商店街づくりを進めることで、賑わいのある商店街・まちを実現します。

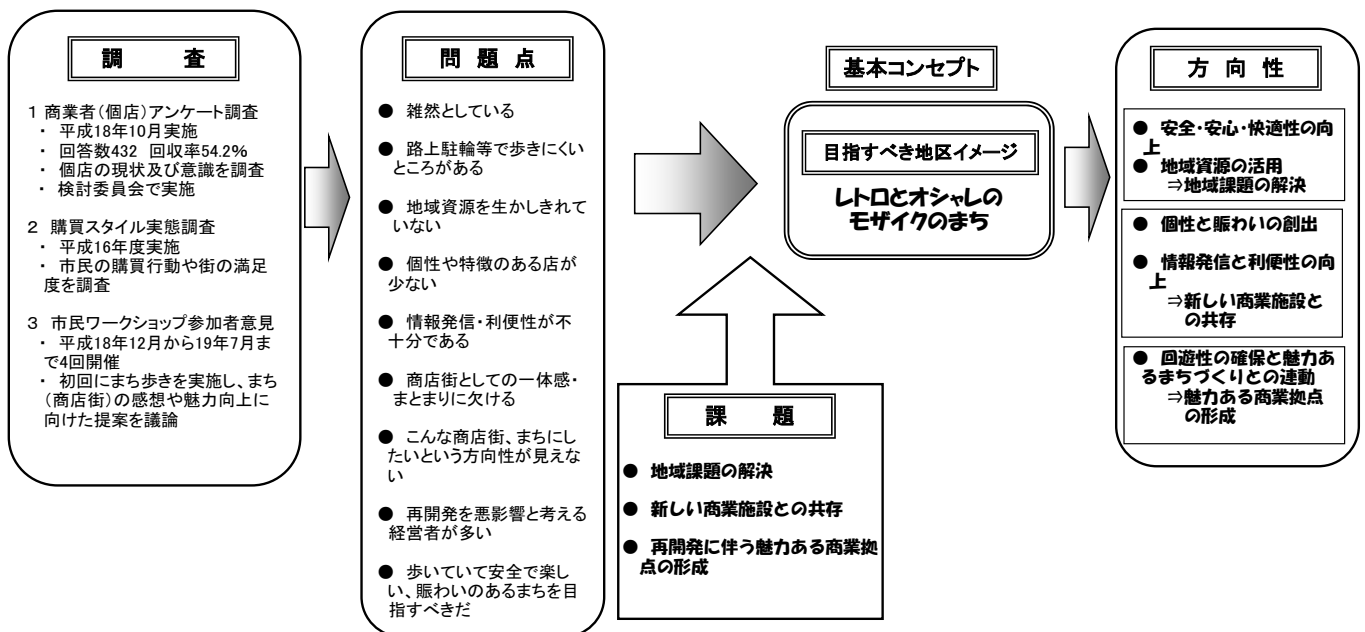
(4) 情報発信と利便性の向上

商店街を中心とする地域の情報を広く発信するとともに、顧客の利便性向上につながる各種サービスを提供することで、「行きたくなる」・「また来たくなる」商店街・まちを実現します。

(5) 回遊性の確保と魅力あるまちづくりとの連動

複数商店街が連携した取り組みを通じて、小杉・丸子・向河原が一体となったまちづくりを目指すとともに、再開発地区と周辺地区とで、それぞれの魅力が融合した活力にあふれるまちを実現します。

商業ビジョンの方向性に至るまでの議論をまとめると、下表のように整理できます。



事業者（個店）アンケート調査や購買スタイル調査、市民ワークショップの結果から、商店街やまちの問題点等を抽出し、考慮すべき3つの課題（『地域課題の解決』・『新しい商業施設との共存』・『再開発に伴う魅力ある商業拠点の形成』）を踏まえて、基本コンセプトとして『レトロとオシャレのモザイクのまち』という地区イメージが提示されました。さらに、この地区イメージを実現するため、5つの方向性が示されました。次章以降では、この方向性に基づき、より具体的な活動内容について検討していきます。